

2026年夏天気予報、電気トラブルとUPSの関係性~UPSの役割~

Uninterruptible Power Supply

停電や電圧変動から機器を保護し、安定した電力供給を実現



UPSとは？

UPS(無停電電源装置)とは、停電や電圧の異常が起きた際に、バッテリーから電気を供給してパソコンやサーバーなどの電子機器と大切なデータを守る「電源のバックアップ装置」のことです

最新気象データが警告する、かつてない停電と雷サージのリスク



豪雨リスク

477件超

2026年夏は、警報レベルの大雨に加え、7~9月のゲリラ雷雨が昨年より多くなる見込み。

2025

2026
予測

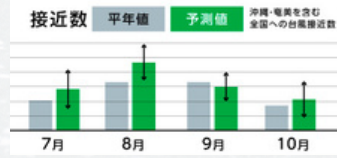
参照：
<https://jp.weathernews.com/news/56092>



連続台風リスク

8月ピーク

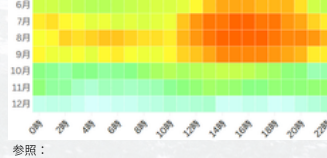
8月を中心に日本列島への接近数が増加。秋口は動きが発達した台風による長期停電リスク。



年間落雷の集中

年間の 43.6%

7月、8月の午後2~6時台の5時間に年間の43.6%が集中ビジネス稼働中の午後が最も危険



電力需要の増加による

停電・電圧
低下リスク

2026年度夏季は、10年に一度の厳しい暑さを想定しても必要な予備率3%は確保できる見込み。一方、異常気象や設備トラブル等により電力需給は予断を許さず、電源トラブルへの備えが重要です。

参照：
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku/gas/jisedai_kiban/pdf/005_08_00.pdf
資料8：2026年度の電力需給見通しについて P.3

気象リスク

落雷

ゲリラ豪雨・台風

猛暑・電力需要増

電氣的異常

雷サージ(過電圧/過電流)

広域停電(ブラックアウト)

瞬低(瞬間的な電圧低下)

事業被害

通信機器損害による
ネットワーク切断

サーバーの強制終了
データ完全喪失

機器故障による復旧遅延と
数日間の業務停止

お盆長期間中の無人運転リスク

台風接近や猛暑のピークが重なる8月中旬、オフィスや施設が無人の状態では電源トラブルが発生すると復旧が遅れ、致命的な損害につながります。

2026年この夏の電源リスクに備える。停電対策は、9月の補助金申請準備から

電力需給リスクや自然災害に備え、補助金活用を見据えたUPS導入準備が重要です。参照：<https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/josei/setsubijosei/bcp.html>

ご注意：交付決定前に発注・契約・購入したUPSは助成対象外となる場合があります。申請から交付決定、導入までには時間がかかるため、9月申請を検討する場合は、夏のうちからBCPの確認、UPS選定、見積取得、GビスID取得を進めておくことが重要です。詳細は東京都中小企業振興公社の募集要項をご確認ください。

「都内中小企業者等向け/BCP実践促進助成金」活用の流れ：準備→申請→審査→交付決定→導入→報告

STEP 1 事前準備 7月~8月

申請要件・BCPの確認
BCP策定支援の利用、又は事業継続力強化計画の認定を確認
BCPにUPSの品名・台数・設置場所・必要理由を明記

STEP 2 申請 9月

助成金申請
電子申請で申請
2026年度第2回申請受付
(予定)9月9日~9月15日

STEP 3 審査 10月~11月

審査
申請内容・対象経費を確認
BCPと導入設備の関連性を審査

STEP 4 交付決定 11月下旬予定

交付決定後に発注・契約が可能
交付決定前に発注・契約・購入した設備は、助成対象外です。

STEP 5 UPS導入 12月以降

発注・納品
設置・支払い

STEP 6 完了報告 助成金受領

導入完了後に実績を報告
完了検査・助成金額確定後に助成金を受領

「全国の中小企業者等向け/「事業継続力強化計画」認定制度の活用の流れ 申請：電子申請/標準処理期間約45日

※無停電電源装置は税制対象設備の一例です。設備区分・取得価額等の要件があります。

STEP 1

災害・停電リスクを確認

- ・猛暑による電力需要増
- ・落雷/台風
- ・豪雨による停電リスク

自社のリスクを把握

STEP 2

重要業務と影響を整理

- ・継続すべき重要業務
- ・守るべき設備/システム
- ・停電による影響を整理

事業への影響を明確化

STEP 3

事前対策を計画

- ・初動対応を整理
- ・UPS等の導入を計画
- ・訓練/見直し方法を検討

事業継続力強化
計画を策定

STEP 4

認定申請

- ・電子申請
- ・GビスIDプライムを利用
- ・標準処理期間：約45日

国の認定を申請

STEP 5

認定取得・対策実施

- ・認定後、計画に沿って実施
- ・UPS等の設備を導入

重要システムを
電源を保護

STEP 6

支援措置を確認・活用

- ・防災/減災投資促進税制
- ・金融支援
- ・各種補助金加算

要件に応じて活用

参照：<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/keizokuryoku.html>

APC UPSが選ばれる4つの理由

BCN AWARD 2026

UPS部門 最優秀賞 受賞



11年連続！
最優秀賞受賞
連続17回目

シュナイダーエレクトリックは、株式会社BCNが主催する「BCN AWARD 2025」(1月20日発表)のUPS(無停電電源装置)部門において最優秀賞を受賞しました。

UPSのパイオニア。
40年以上にわたり
業界を牽引。



用途に合わせて
選べるラインナップ
家庭・オフィス・店舗
・サーバールーム・IT
ラックまで幅広く対応。

運用も、復旧も、相談も。

APCのUPSなら
“ずっと安心”



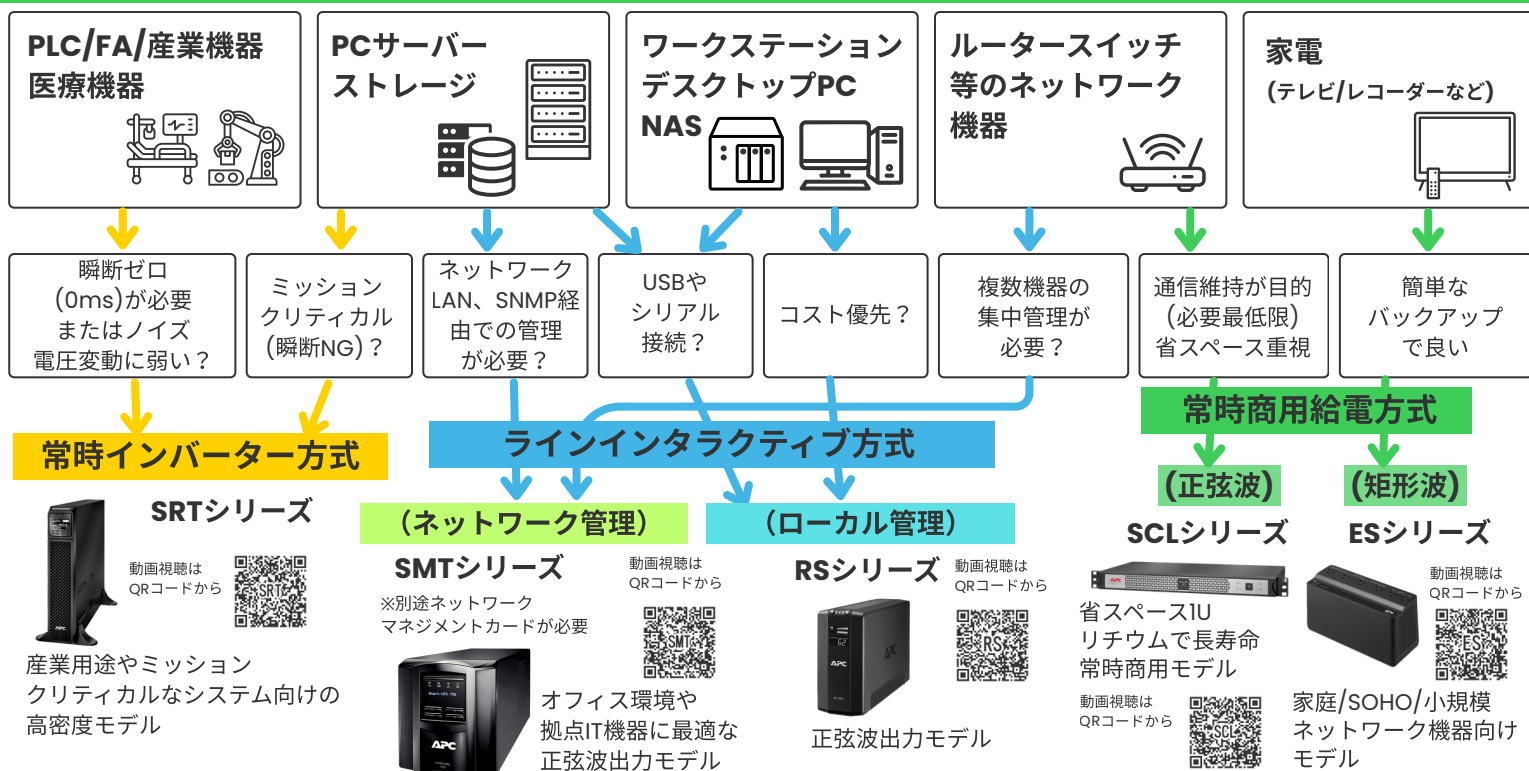
購入前から使用後
までサポート
製品選定、保証・保守
使用済みバッテリー回収
まで対応。

世界で最も
サステナブルな企業 2026
シュナイダー
エレクトリック、
3年連続世界第1位※



※TIME誌およびStatistaによる「世界で最もサステナブルな企業 2026」において

最適なUPS(無停電電源装置)の選び方：UPS選定フロー



夏本番！チェックリスト

既存UPSユーザー向け メンテナンスチェック

- | | | | |
|---|---|---|--|
| ☐ バッテリー使用年数を確認した | ☐ UPS周辺の温度・通気を確認した | ☐ UPSを導入していない | ☐ 停電・瞬停が発生すると業務が止まる |
| ☐ UPSの警告表示・アラームを確認した | ☐ 管理ソフトウェアを更新した | ☐ サーバー・NASを運用している | ☐ BCP対策を強化したい |
| ☐ セルフテストを実施した | ☐ 停電時の運用手順を確認した | ☐ ネットワーク停止が業務に影響する | |

新規導入検討チェック

3項目以上当てはまる方はUPS導入をご検討ください



SRTLシリーズ リチウムイオンUPS 1kVA/1.5kVA

- ・50%省スペース・重量約1/2
- ・NMC標準
- (※弊社鉛バッテリーモデルと比較)
- ・製品保証5年
- ・リチウムイオンバッテリーによる長寿命(10年)



シュナイダーエレクトリックの リサイクルおよび回収プログラム

使用済み製品(UPS/アクセサリ/鉛蓄電池/リチウムバッテリー/ラック/PDUなど)の回収が可能になり、回収場所も8か所(神奈川/静岡/愛知/大阪/広島/宮崎/石川/宮城)に増えました。(送料はお客様ご負担となります)



詳しくはこちら
もしくはQRコード
からご覧ください。

Trade-UPS

買い替えの際は「Trade-UPS」をご活用ください



- ①対象となるAPCのUPSを購入
- ②購入製品の登録サイトClubAPCまたはPartnerClubAPCにてUPSの製品ユーザー保証登録を実施
- ③使用済みUPS製品を送料無料でお引取り

※ご購入から3か月間有効
* 詳細はメーカーサイトのサポートページをご覧ください。

販売店

シュナイダーエレクトリック株式会社
〒108-0023東京都港区芝浦2-15-6オアーズ芝浦MJビル
WEBサポート: <https://www.se.com/jp/ja/work/support/customer-care/contact-schneider-electric.jsp>

©Schneider Electric. All Rights Reserved. Life Is On Schneider Electric is a trademark and the property of Schneider Electric SE, its subsidiaries and affiliated companies. APC-NEWS 2026.07